

[月刊] キリスト教書評誌

本のひろば

出会い・本・人

『真珠湾攻撃総隊長の回想
淵田美津雄自叙伝』（講談社）との
出会い 佐藤 順

エッセイ

東北アジア・キリスト者文学会議
開かれる 長濱拓磨

渡辺善太『聖書論』との出会い
関田寛雄

本・批評と紹介

斎藤宗次郎／児玉佳與子 著、児玉実英 編
斎藤宗次郎・孫佳與子との往復書簡
武田清子

榊原康夫 著
使徒言行録講解—全六卷 小野静雄

磯部 隆 著
ローマ帝国とイエス・キリスト
梶田由紀子

ヴァルター・リユティ 著／野崎卓道 訳
主の祈り—講解説教 小泉 健

ジル・マックギルブレイ 著／大西 修 監修／
池本真知子、スチュアート・アダムソン 訳
いのちを育むパストラルケア 上田憲明

木下智雄 著
イギリス人の宗教行動 興石 勇

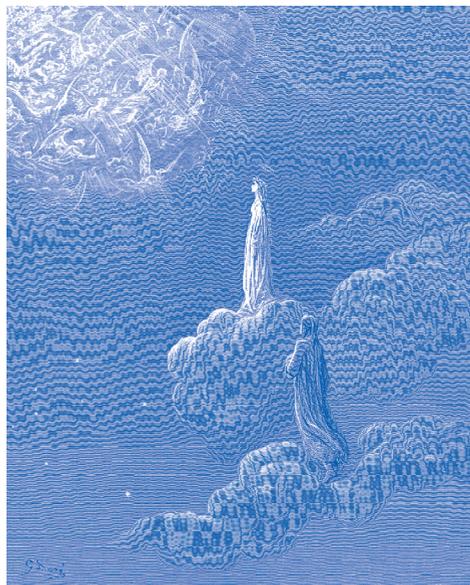
溝口捷支 著
牧師の書斎のデボーション 深澤健一

小川国夫 著
イエス・キリストの生涯 木崎さと子

近刊情報

書店案内

11 NOVEMBER
2013



没後80年記念出版



佐藤全弘、藤井茂

5,980円

新渡戸稲造事典

『武士道』の著者であり、明治から昭和初期にかけて、国内外にわたり、教育者、ジャーナリスト、社会改良家として、多面に活躍した新渡戸稲造。その先行研究の集大成として、その生涯、交友関係、家系、著作、思想、揮毫、教育、学校など多角的視点から光を当てた画期的な事典。詳伝(書き下ろし)、約850の多彩な項目、詳細な年譜、貴重な写真等約280点を収録。



加藤常昭

『祈りへの道』

2,100円

生ける神を信じて生きるとは祈ることに他ならない。しかし祈りにおいてこそ人は罪を犯し、自己に執着し続ける。復活の主イエスの恵みに支えられて初めて、祈りは自由で信頼に満ちた幼な子の心へと解き放たれる。聖書の言葉を説き明かしながら、祈りの原点を指し示す信仰の道しるべ。

新装重版



加藤常昭

信仰への道

使徒信条・十戒・主の祈り

教派を越え、歴史を貫いて学ばれてきた「三要文」を通して、キリスト教信仰の基本を体得する。聖書の真理に学びながら、キリスト教信仰の精髓を学ぶ最良の手引き(加藤常昭信仰講話)の第6、7巻を合本にしました。
3,360円

旧約聖書文学史入門

K・シユミート 山我哲雄訳

4,725円



2009年にカルヴァン生誕五百年を記念して開かれた講演や説教を収録。カルヴァンの旧約聖書解釈の他にも、当時のジュネーヴの出版事情や、音楽や建築など、多岐にわたる主題を取り扱う。

旧約聖書のテキスト群を時代区分・類型によって文学的に特徴付け、成立過程と相互連関を解明する意欲的な試み。現代旧約学を代表する基礎文献として必読の研究。

カルヴァンはユダヤ人か?

3,150円

カルヴァンと旧約聖書

カルヴァン・改革派神学研究所編



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e shop 教文館



出会う・本・人

『真珠湾攻撃総隊長の回想 淵田美津雄自叙伝』講談社との出会い——佐藤 順

「お父さん、日本の海軍は卑怯だったんじゃないの」と当時八

歳の私は、家族で立ち寄った真珠湾・戦艦アリゾナ記念館で父に訴えた。一九六八年、海軍兵学校七十五期だった父・佐藤陽二（牛込キリスト教会・創立牧師）にとつて、太平洋戦争は昨日の出来事のような頃のことである。父は、黙って息子の質問を受け止めていた。日本海軍の真珠湾奇襲攻撃により、大爆発を起こした米国海軍・戦艦アリゾナは、現在も戦死した乗組員千七百七十七名の遺体と共に湾の底に沈没状態で保存されている。その船体上にアリゾナ記念館があり、今も船体から油が漏れ出し海面に浮かんでいるという。

『真珠湾攻撃総隊長の回想 淵田美津雄自叙伝』は、このアリゾナを撃沈した攻撃隊の指揮官だった淵田美津雄が、戦後書きためていた自叙伝の草稿を出版したものである。敗戦直後、東京初空襲をしたドーリトル爆撃隊の元搭乗員だった宣教師の働きにより、淵田は聖書を読み始める。そして、ルカ23章34節「かくてイエス言いたまふ、父よ、彼らを赦し給へ、その為す処を知らざればなり」という十字架上でイエス・キリストが祈られた御言葉により、キリストの贖いを知り、一九五一年洗礼を受けた。その後は伝道者となり、平和を訴えるため、日本各地、そして仇敵アメ

リカへ伝道の旅に出ている。

本書の要は、一九五三（昭和二八）年、淵田が太平洋戦争末期の大統領トルーマンと会見た場面であろう。真珠湾が話題に出た際、トルーマン前大統領は笑いながら、「キャブテン、真珠湾はね、ボス・ギウルチイ（両者有罪）だよ」と言つたという。淵田が「そりや神の前にはボス・ギウルチイでしようけれど……」と言いかけると、トルーマンは遮って、「いいや、神の前ばかりでなく、人間の前にも、今に史実としてボス・ギウルチイが明らかになるだろう」と言つたのだった。日本軍の不意打ちにより始まったとされてきた太平洋戦争である。本書はその歴史を書き換える重要な資料となるであろう。

広島に原爆を投下したB-29エノラ・ゲイの機長ポール・ティベッツ大佐は、最期まで原爆を正当化していた。一方、真珠湾攻撃の総隊長淵田大佐は、悔い改め、国内外でキリストの愛を伝える伝道者となっている。「淵田さんは、本当に澄んだ美しい瞳をしておられました」という、戦後の伝道集会で淵田元大佐に会われた兵学校七十七期の高橋五六兄（福山アライアンス教会会員）の一言が忘れられない。

（さとう・じゅん）牛込キリスト教会牧師カトリック神学大学院日本校学長

東北アジア・キリスト者文学会議開かれる

長濱拓磨

はじめに

第十四回東北アジア・キリスト者文学会議が、八月一日（木）（四日（日））、大韓聖書公会ロス記念館（韓国、龍仁市）において開催された。

この会議は、一九八七年から一年おきに、日本と韓国を交互に会場にして開かれてきた。第一回会議には台湾の代表が参加したこともあって、会議名に「東北アジア」が冠せられたが、第二回からは、諸般の事情で日韓の参加者に限られることになった。その中心的役割を担ったのが、劇作家の故・高堂要氏と詩人の故・金元植氏である。

会議では、日韓の具体的な作品を双方で読み合い、日韓の発題者の発表のあとで議論するという形で、白熱の討議が交わされたが、他にも詩の朗読やピアノの演奏、パンソリの披露などが間に挿まれ、様々な音が響き合った。

今回、韓国からの参加者は三十名、日本からの参加者は十一名。一日（木）にはレセプションと第八回アジア・キリスト者文学賞授賞式が開催され、劇作家で前・崇実大学教授の李盤氏が受賞した。

八月二日（金）

「金顕承の詩に現われた時間意識」という演題のもとに、詩人で湖南大学名誉教授の李郷我氏が基調講演をし、質疑応答の時間を持った。韓国を代表するキリスト教詩人である金顕承の詩を、自然的時間と創造的時間の二つの側面から分析し、そこに現われた詩人の人生に対する態度や信仰姿勢を浮かび上がらせた。金顕承の詩全てを視野に入れた迫真の講演であった。

日本の小説は、太宰治の『人間失格』が取り上げられた。韓国からは、作家の玄吉彦氏、日本からは、私が発表した。玄氏は、「自我と世界からの逃避と自己喪失」と題し、主人公大庭葉蔵がいかにして自我を形成しようとし、そして失敗していったのかを鋭く分析した。私は、作品に現われた「神」という言語に注目し、作品に現われたキリスト教的言説を指摘した。

韓国の詩は、朴木月の「開眼」と「大きくて柔らかい手」と「母の聖書」が選ばれ、韓国からは、詩人で白石大学教授の文賢美氏、日本からは、詩人の中山直子氏が発表した。「信仰詩」について少し議論があった。文氏は「母の聖書」を散文的であり信仰詩とは言い難いとして対象から外した。逆に中山氏は「母の聖書」に現われた母の聖書を読む信仰姿勢が「復活のキ



『人間失格』について発表する玄吉彦氏（中央）、その左、筆者。

リスト」に出会う契機となるとして「大きくて柔らかい手」とともに信仰詩として取り上げた。二人ともキリスト教詩人として活躍しているが、何をもって「信仰詩」とするのか両者の定義づけが異なっていたようである。

韓国の小説は、李清俊の『虫物語』（一九八五年）が取り上げられた。日本からは、二松学舎大学教授の芹川哲世氏、韓国からは、詩人で慶北大学教授の南錦姫氏が発題した。ソウル

で実際に起きた児童誘拐監禁殺人事件をモデルとしたこの作品は、「密陽」というタイトルで二〇〇七年に映画化されている。芹川氏は、タイトルの「虫」の意味、キリスト教の戒律に挑戦する意図、政治的アレゴリーという三つの点から作品に迫った。南氏は、詳細な作品分析の後に、「赦しの限界と犠牲者の証言」という主題を導き出した。

八月三日（土）

日本の詩は、八木重吉の詩「貫く光」「草にすわる」「虫」「素朴な琴」が取り上げられた。日本からは、児童文学者のきどりこ氏、韓国からは、詩人で淑明女子大学教授の金應教氏が発表した。きど氏は、「かなしみ」をキーワードとして詩を分析した後、重吉の詩を作曲した歌を披露した。金氏は、八木重吉の創作態度に注目し、とりわけ神にささげる「いけにえとしての詩」という点を指摘した。

八月四日（日）

主日礼拝が合同で行われた。韓国側代表の関泳珍牧師の司会のもと、日本側代表の森田進牧師（堺市、土師教会）が「葡萄酒に変わった水」という題で説教をした。通訳もあったが、讃美歌ではそれぞれが日本語と韓国語で同時に歌い、キリストの名の下に日韓が一つに結ばれていることを強く感じた礼拝であった。（ながはま・たくま 京都外国語大学准教授）

渡辺善太『聖書論』との出会い

関田寛雄

私と渡辺聖書論との出会いは、神学的関心からというよりも実践的契機であった。別の機会にも述べた事であるが、神学校では聖書を歴史的批判的に読むことが聖書解釈だと教わった。やがて開拓伝道の現場に入りつつも大学の研究室に残された者として直面したのは、牧会の現場での説教使信のための聖書解釈と、学的批判的聖書解釈との矛盾であった。この頃ある高等学校の聖書科講師をしていて、そこで同じく講師の橋本ナホ牧師に出会い、そのチャペルでの説教の明快さに心打たれた者として、私の悩みを打ち明けたところ、直ちに立教大学における渡辺善太教授のゼミを紹介してくださった。

前述の、歴史批判的に聖書を読む事を聖書解釈の原則と考えていた当時の私にとって、渡辺正典論は、最初「躓き」以外のものではなかった。十数名の出席者の中でしばしば善太先生と私とは論争にはまり込むに至った。あくまで歴史的批判的解釈に固執する私に対して、遂に善太先生は声を荒げて言った。

「君の聖書の読み方は間違っている。聖書というものは、生きるか死ぬかの瀬戸際に立って読むものだ。それなのに君は事

毎にやれ、編集句、だの、附加句、だのと云う。それでは聖書の心は分からんのだ」と。この一喝は私にとってはショックであった。帰路、橋本牧師の説明を聞く度に、私は正典論の意義を漸く理解するに至ったのであった。

善太先生は歴史的批判的解釈を決して否定しないどころか、むしろその面での巨大な学的貢献をしておられる。初期の『モ一七五書緒論』から後期の『出エジプト以前』に至るまで一貫してその立場を認めておられる。その上でそれを「位置づけ」た所で、正典論を展開されるのである。この「位置づけ」が大切なのであって、多くの誤解はこの「位置づけ」の意義を理解しない所にある。

既に一九七〇年代に、聖書学界に広く展開された構造主義的聖書解釈、即ち歴史的、通時的聖書解釈に対して、構造的、共時的聖書解釈のモチーフを先取りしておられたのが、善太先生の正典論である、と受けとめている、八木誠一氏と私は同意見である。つまり善太先生は歴史的批判的聖書解釈の評価と共に、統対的構造的正典としての聖書解釈の権利を主張しておられる

のである。しかもその正典論は単に敬虔主義的なナイーブな聖書解釈ではなく、一貫して厳密な論理性によって体系化され、学としての資質が確立されており、従ってかつてC・マイケルソンの著書『キリスト教神学における日本人の貢献』(Japanese Contributions to Christian Theology, Philadelphia, The Westminster Press, 1960)におよび、日本人神学者の生み出した独自の神学的貢献として評価されているのである。

私は別のところで「正典としての聖書」という認識は教会の健康度のバロメーターである」と述べたことがあるが、今、正にそのことを強調したい。最近のキリスト教界のある教団では、一九七〇年前後の教会紛争における厳しい問題提起に対する反動として極めて保守化を深めている状況がある。いうまでもなく、我々プロテスタント教会の成立条件の一つは、聖書の権威の優位性である。それは教会史的過程の中でそれなりに必然性をもって生れた三一論をはじめ諸教義に優先するものであり、

神学の営為とは繰り返し「信仰と生活との誤りなき規範」(「日本基督教団信仰告白」より)なる聖書に照合しつ自らの教会の存在と行為と発言とを吟味するべきものである。しかしながら、伝統的教義やサクラメントの理解において極めて教条主義的傾向を示し、さらには相対的、状況的所産に過ぎない「教憲・教規」なるものを絶対化し、それに対する違反と「断定」して、一教師の免職という事件まで引き起こしている。これらの流れは、教会の原点としての正典としての聖書の権威を空しくするものであり、教会論的には重大な危機と言わねばならない。この点「対話の場としての正典」(岡村民子、『渡辺善太著作選』別巻にて発行予定)の認識を回復してほしいと切に願わざるを得ない。「正典としての聖書」こそが、教会に生命的流動性を与えるものであるからである。

(せきた・ひろお 日本基督教団神奈川教区巡回教師)

渡辺善太著作選①

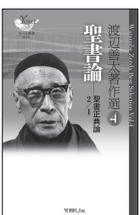
聖書論

聖書正典論

2/1

*ヨベル新書16 ◎新書判 二五六頁・一八九〇円税込

好評発売中！



◎ 宗匠様とその周辺 センダゴン・ギヤラクシー 早川敏
◎ 正典的聖書解釈と説教 関田寛雄
◎ 渡辺善太における現象学的態度 小林和夫
◎ 偽善者を出す処 好評発売中！ ◎ 一八九〇円税込
◎ 現業教会の福音的認識 他 好評発売中！ ◎ 一八九〇円税込
◎ 聖書論―聖書正典論 好評発売中！ ◎ 一八九〇円税込
◎ わかかって、わからないキリスト教 好評発売中！ ◎ 一八九〇円税込

次回本予定

絶賛発売中！

牧師の書齋のデボーション

書齋での静寂の中で御言葉に感じ、瞑想し、書きとめられた8年間にわたる信仰短信！牧会者の信徒への思いも深さが伝わる書。
*四六判・286頁・1,470円(税込)

ヨベル新書017

齋藤孝志◎著 応答：小野寺功

道・真理・命 1

ヨハネによる福音書に
徹して聴く(1~6章)

永遠の命について真正面から語りかけた著者の渾身のメッセージ。
*新書判・256頁・1,050円(税込)

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
自費出版の専門出版社

斎藤宗次郎の人間像

斎藤宗次郎／児玉佳與子著、児玉実英編

斎藤宗次郎・孫佳與子との往復書簡
空襲と疎開のはざままで



武田清子

斎藤宗次郎に私が関心をもつに至った二、三のエピソードがある。内村鑑三の非戦論に共鳴した花巻の小学校教師斎藤宗次郎が銃殺覚悟で兵役・納税拒否の断行を決意してそれを内村に書いた。それに対し、内村が厳冬の夜行列車で雪の花巻にかけつけ、「眞理と眞理の応用」の違いを説き、家族や他の人々に

内は心臓麻痺で急死した。この時、内村は、「あの死は不思議だ。君（宗次郎）の手紙を受けとって深く考えたとすれば、脳や心臓にこたえて死を招いたかもしれない」といったという。叱つたり、ある評価を含んだ感想を示したり、内村の反応は彼らしいと思われる。

さらに、死に直面する内村を宗次郎は最後までそばを離れず、寝息をかぞえて看病しつづけたことである。

迷惑をかけることになる実践は止めるよう説得、それでもやるなら誰にも知らせず独りでやれと説いた。それに納得、これより内村の弟子になった。また、内村の愛弟子であった劇作家の小山内薫がキリスト教を棄て、『朝日新聞』に「背教者」という小説を書き始めた時、小山内が悔改めてキリスト教に戻るよう内村は折っていた。宗次郎は先生が折っておられるからキリスト教に戻るよう小山内に手紙を書いた。それを知った内村は激怒した。「背教者に対してこちらから辞を低くして帰れとうながすのは豚に眞珠を与えるようなものだ。その手紙をとり戻してこい」と命じた。よいことをしたと思っていた宗次郎はおどろき、あちこち探しまわってやっと小山内をみつけて手紙をとり返してきた。その二日後、クリスマスの一つの集りで小山

その斎藤宗次郎はその後の三十五年間、『基督信徒之友』などの編集、壕内に『内村鑑三全集』二十巻を入れて空襲から守ること等の外、東京郊外の杉並区で三百坪の畑を耕し、いろいろの野菜を育てる畑仕事に朝四時前から夕八時頃まで働きつづけていた。本書は、その生活の中から信州上田に疎開した国民学校五年生の孫娘佳與子に書き送った絵入りの手紙と孫佳與子からの便り、本書の編者児玉実英（佳與子の夫）、その他の解説を含む本である。

宗次郎はイエス様が常に共にいられる。神様がなにを望んで

おられるかを考えて正しく日々を送るようにと祈って孫を信州へ送り出した。その後の彼の便りは、南瓜が二八七個収穫できたとか、柿がどれだけとれたとか、畑仕事の成果を自然のめぐみ、神の恩恵として感謝を淡々と述べ、家族の動向などを具体的に知らせている。「しもやけやアカギレができて痛い。然し何でも苦しい思いをすることが善いことだ、さむさも有難い。一同無事」。こうした短い表現に宗次郎の生き方と信念が端的に示されている。終戦が近づく昭和二十年元旦には、「我等の祖国大日本帝国は尊き天職を果すために、苦難と試練」のもとにある、我々は、「各々高き信仰と誠実なる精神と壮健な身体をもって毎日の善き戦いに当らねばならぬ。幼き佳與子も老いたる祖父も斯くあらんことを祈る」と彼の信仰と愛国心が表現されている。

祖父や家族への佳與子の便りは、これまた、けなげに明るく、疎開生活の寂しさなどみじんも見せず、先生や寮母さんや友だちと仲良く元気に生活している様子が生々としてつづられている。これらの往復書簡から受ける印象は、宗次郎を中心とする家族全体が、神様に守られているという安心感、すべてを善意で受けとめ感謝する心が一貫しててすがすがしい。

ただ一つ、「キリスト教」と「天皇への忠誠・聖戦・愛国」との二つが宗次郎の中でどういう関係になっていたかの問題が気にかかった。本書の終りになって編者児玉実英の文章を読んだ、彼もこの点を終始気にしておられたことを発見した。

宗次郎は子供の頃から天皇（皇室）を尊崇することを教えこまれてきており、あの戦争も聖戦と考える愛国者であった。特高警察や憲兵に度々呼び出されてもなごやかに話しあつて帰ってきており、「キリスト教の神と天照大神との関係」を問われても、「比較するのは失礼」といつて返答せずに帰ってきたと書いている。

私は思う。愛国者内村鑑三は、「二つのJ」、「イエスと日本」につき、「私の信仰は一つの中心をもつ円ではない。二つの中心をもつ楕円だ」といったことがある。期せずして斎藤宗次郎は、師に似て（同じではないが）、二つの中心をもつ彼独自の楕円の信仰をもって生きた人かとも思われる。私がかつておこなった意識調査にみる明治期キリスト者の一タイプであろうか？

（たけだ・きよこ）国際基督教大学名誉教授
（四六判・三七八頁＋口絵八頁・定価三二五〇円（税込）・教文館）

使徒的宣教の原初形態への畏敬、そして集中
榊原康夫著

使徒言行録講解

全六巻

使徒言行録講解

1 1-3章
榊原康夫



教文館

小野静雄

二〇一三年一月、八一歳で逝去された著者の最後の説教集である。榊原康夫先生は、日本キリスト改革派教会の「説教」の歩みにとって、特に大きな足跡を残した人と言つてよい。その事実にも異論をいざしく人は、少なくとも日本キリスト改革派教会の中にはいないであろう。

説教者としての著者の歩みを貫くのは、何よりも旧新約聖書の原典研究を踏まえた周到精密な聖書釈義である。その方針は、晩年に至るまでいささかの変更もない。原文の理解について、釈義上考えられる幾つかの選択肢を示したうえで、著者が妥当と考える意味を確定し、聖書本文がそこで語ろうとする内容を提示する。著者は、いつの頃からか自身の説教を「釈義説教」と称するようになった。聖書本文の釈義が、ほとんどそのまま説教の使信を形作るという理解である。

著者の説教観は、本書においても各所で部分的に示されている。一例を挙げれば、聖霊降臨後のペトロによる説教について、次の発言がある。「この説教において、決して説教者個人の信仰体験であるとか説教者本人の思想であるとか、そういうこと

を宣伝するのではなくて、聖書が契約と預言において示しております聖書の論理、神様の理屈、これを見事に解き明かして論証と説得をするという、非常に聖書的なロジックに裏付けられた堂々とした説教でありました」(第一巻、一一頁)。

説教は聖書本文の解き明かしである。この定義に異論をはさむ牧師はいない。ただ聖書から説教に至る言葉の歩みの中で、説教者自身の信仰と存在、あるいは会衆のもつ言葉など、説教言語の多重性への配慮を求めることが、現代説教論の主流を占めることは否定できない。聖書本文以外のさまざまな言語(物語)の導入を、聖書の説教からの逸脱とみるか、福音的説教のあるべき道筋とみるか。現代説教論の主たる傾向は後者にある。そうした中で、本書の著者の説教理解は、上に示したように、「説教者個人」「説教者本人」の体験や思想を極力抑制し、純粹に聖書そのものをして語らしめる方法である。

しかしこの抑制は、著者の説教にかえてつて精彩と力強さを加えている。出版された著者の説教を、比較的多く読んできた筆者の貧しい観察に照らしても、壮年期の釈義的説教には、渾身

の力量を傾けてなされる、ほとんど華麗とも言える見事な洞察が多く見られた。目を瞠るような思い切った釈義上の冒険も少なくなかったのである。その意味では、晩年の説教を収める本書は、まさに「地味な講解説教」(第一巻、八頁の著者自身の表現)という印象が強い。

しかしそれは著者晩年の説教の衰退などを示すのではない。むしろ、深く抑制された釈義と適用から、滋味豊かな励ましと慰めが届いてくる。あたかもビシディア州アンティオケでのパウロの説教のように、朗読された神の言葉に見事に即して、「神の御言葉が一人ひとりわたしのかたわらに聞こえて来る、そのような類の説教と言わねばならない」(第四巻、八五頁)。

抑制されている分、それだけテキストの字句を貫いて来る福音の使信は、固い岩から流れ出る清水のように、聴き手の魂を奥深く潤し、牧会者の祈りと愛を教会に満たしたであろう。筆

公会議開幕50周年にあたり刊行。

旧訳に対し全面的改訂を施した公式訳。

第二バチカン公会議 公文書 改訂公式訳

1962年から1965年の間に開かれ、カトリック教会の現代化を図った第二バチカン公会議。その公会議の16公文書の改訂公式訳。総序および各文書解説と索引を付す。カトリック教会内部にとどまるのではなく、すべてのキリスト者、そして現代世界に生きるすべての人々へメッセージを送ることが、本意を意図した公会議の精神が、本書により、広く多くの人に届くことを心から願う。



第二バチカン公会議
公文書 改訂公式訳

A5判上製880頁 税込3150円

カトリック中央協議会

135-8585 東京都江東区潮見2-10-10
日本カトリック会館 ☎03-5632-4411
http://www.cbj.catholic.jp/

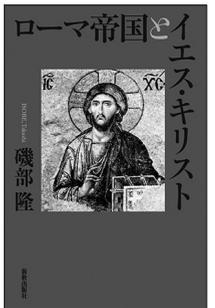
者自身、知悉しているはずの聖句と初めて対面するような、驚きと欲びを幾度も体験した。生涯最後の説教のために『使徒言行録』を選んだことは、使徒的宣教の原初形態、そこを流れる伝道精神への深い傾倒を考慮しないわけにはいかない。

七〇歳で引退後一〇年は、時おり東京恩寵教会の講壇を託されたが、八〇歳を迎えたとき、実際の講壇に立つことを自ら断念された。語り残した二〇回分は、自室のテープレコーダーに向かい一人で語ったという(本書第六巻)。説教者として歩む後進の心に、ゾクリと鳥肌の立つような畏怖を抱かせた挿話ではないか。老いてなお幼児のように御言葉に熱中したのである。

(おの・しずお 日本キリスト改革派多治見教会牧師)
(四六判・全二一四頁・定価計一四四九〇円(税込)・教文館)

歴史上のイエスに近づぐために
磯部 隆著

ローマ帝国とイエス・キリスト



梶田由紀子

本書は、世界史の転回点となったイエスの登場とその活動を、ローマ帝国との関係に視点を設定して浮かび上がらせようとした試みだ。

ローマ帝国は当時、イエスが育ったガリラヤ地方はもちろんのこと、地中海世界を股にかける広大な支配圏域を築きあげていた。この広大な地域には、ローマ帝国の支配の影が、その地に生まれ育ち暮らしていく人々の内にも外にも落ちていたという仕組みが用意されていたのだ。意識するしないにかかわらず、ガリラヤの人々はその仕組み、装置の中で生きていた。

小さな近隣コミュニティの普段の生活レベルから一国家の意思決定に至るまで、どこにでもローマ帝国の支配の影が大きく落ちていた。このような状況の中で生きたイエスに近づぐためには、ローマ帝国の存在をどうとらえるかという視点が不可欠であろう——これが著者磯部さんの主張である。ローマ帝国との関連のなかで歴史上のイエスを浮かび上がらせる。それは、荒井献氏や田川建三氏といったこれまでの聖書研究者によっても、必ずしも十分には追求されてこなかった視点だ。

だから、磯部さんが特に気を配る点は、イエスのことばや行動の背景に横たわるローマ帝国と、その支配地域（特にガリラヤ）それぞれの状況、そして両者の関係である。そのため広くローマの政治、社会、経済、風俗、劇場文化等々の研究文献を調べ、イエスのことばと行動の本来の意味はどこにあるのか、どのように歴史的な事実として再現し得るのかを、可能な限り具体的に読者に提示することを試みる。この意味で本書は徹底した現場主義に立っている。

徹底した現場主義と書いたが、読んでいくにつれて、本書がただ現場の再現のみに終始しているのではなく、現場を出発点にして、イエスが説く愛（深きあわれみ）や神の国の姿に迫り、さらにそのようなことを説くイエスその人に迫ろうとしていることにも気づく。出発点はイエスの現場だが、目的地は現場にいるイエスその人である。

イエスは、神の眼にとつての人間のあるべき姿を語る。そしてイエスを通じて私たちは、今度は神の本来の姿を見る。そのうえで、磯部さんは、福音書はもちろんイザヤ書や死海文書な

どの原語を解釈し分析しながら、神がこの世に送ったただひとりの子、イエスの実像に、学問的に迫る。本書は、ローマ的価値観や思考様式と鋭く対決するイエスの姿を浮かび上がらせる。イエスにとつての、またイエスの神にとつての、あるべき人間のありかたとはどのようなものか、そうした問題に関して、磯部さんの研究方法はイエスのことばの、あるいは行為の、深いリアリティを効果的に浮かび上がらせる。

実際に本書を読んでもみると、ふしぎなことに、すらすら読めて、研究書だということをすっかり忘れてしまう。読みたい章、気になる章から読み始めても問題なく読み進められるようになっていくし、聖書を手元に置いて対照しなくても大丈夫だ。そういうわけだから、どんどんページをめくって先へ先へ進むのだけど、本を閉じた後、「そういえばこんなこと書いてあったけど……」、なんてあれこれ思いがじんわりと湧いてくる。明日食べる物がなくなつて背中冷たいものが走る放蕩息子のピ

ンチを、自分も一瞬共有したような気さえする。内容の性格上、本書を手取るのにはやはり聖書研究者の方が多いと思うが、極端な話、たとえば中学生が朝読書（学校単位で一時限前に毎朝読書の時間を少し設ける、アレです）に選んでも、少々むずかしいだろうが読んでいけると思う。専門用語の使用は必要最小限で、必ず簡明な説明が付く。本書くらい、信仰や予備知識の有無にかかわらず幅広い層に読んでもらえる研究書はそう多くないだろう。またともに聖書を読むのは本書の聖書引用が初めて、という方もいらつしやるかもしれない。大丈夫、ポイントとなる論点は明確に指摘されていて十分フォローできる。分析の流れのなかで著者本人のお人柄がときおり、ひよっこり見え隠れするのもおもしろい。

(かじた・ゆきこ 作家)
(四六判・四七三頁・定価二七三〇円(税込)・新教出版社)

教会暦に沿った詩的黙想31編



光射す途へと 教会暦による信仰詩集

ジョン・キープル 今橋朗 編・訳

「わが魂のひかり」(『讚美歌21』214番)の原詩も収められた詩集『教会暦』から精選。新たな教会の一年の始まりに。
四六判・194頁・2310円

ローティーン向け伝記シリーズ

ひかりをかかげて
岩村昇 第5回 記本
ネパールの人々と共に歩んだ医師

田村光三
公衆衛生医として、18年の歳月を「みんなで生きるため」ネパール医療に捧げた岩村の生涯。A5判・114頁・1,260円

聖書解釈の新たな可能性
聖書の物語論的読み方
新たな解釈へのアプローチ
J.L.スカ 佐久間 勳/石原良明 訳
聖書を物語として読む方法論を紹介。小説分析方法を聖書に適用する。A5判・210頁・3,150円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格税込)
<http://bp-uccj.jp>

信仰の手引き、講解説教の模範
ヴァルター・リュティ著
野崎卓道訳

主の祈り
講解説教



小泉 健

リュティが二〇世紀を代表する説教者であることに異議を唱える人はいないでしょう。リュティの旧約聖書の講解説教は、すでに一九七〇年代以降、六戸達牧師の名訳によって紹介されています。これらの説教集は、信仰者を慰めるとともに、説教者にとっての大切な指針となりました。「旧約聖書の説教とは何か」という問いは、説教学においても、実際に説教をするところにおいても、大きな課題の一つです。わたしは説教学の教師として、この問いに答える責任を負っています。しかし、わたしが言葉を尽くして説明するよりも、「リュティの旧約聖書の説教を一篇でも読んでごらん。そうしたらわかるから」というのが、もっとよい、もっと説得力のある答えであろうと思っています（実際に教室でもそう言っています）。

リュティの旧約聖書の説教集を愛読する人は、「なぜ旧約聖書の説教集ばかり訳されて、新約聖書の説教集は紹介されないのだろう」と不思議に思い続けてきたのではないのでしょうか。「新約聖書の説教集もぜひ翻訳出版してほしい」というわたしたちの願いが満たされて、（旧約聖書の説教集も含まれていま

すが）『祝福される人々』『十戒』そして今回の『主の祈り』（いずれも新教出版社）と、出版が続いているのはほんとうにうれしいことです。訳者と出版社の労に感謝いたします。

本書に収められた説教は、第二次世界大戦のすぐ後、『預言者ネヘミヤ』（新教出版社）に収められた説教に続いて語られました。『預言者ネヘミヤ』は王国の滅亡と捕囚の後に、どのようにして神の民を再建するかを語っていました。そこには当然、新しい神の民である教会の再建が重ねられています。それに続いて語られた本書においても、なお揺れ動く世界的状況の中で信仰を再建することが一貫した関心事です。戦争の悲惨と戦後の混迷のただ中であって、ここで神を信じるとはどういうことなのかを問うのです。ですから、本書はすぐれた信仰入門にもなっています。

本書にかぎらず、リュティのどの説教にも言えることですが、聖書の言葉が、キリストの光に照らされることによって解き明かされます。たとえば、わたしたちが神を「父」と呼ぶことも、神の御名を聖とすることも、それがどれほど深くキリストの人

格とみわがに結びついたことであるのが明らかにされます。このことよって、御言葉を正しく捉えることができるようになるだけでなく、信仰の筋道がはっきりさせられるのです。

また、これも本書にかぎらない特色ですが、リュティの説教にはイメージと呼び起す力があります。どの説教においても、世界の動きや信仰者の姿がみごとに描き出されます。そしてそれらのイメージは、何かを説明する働きをするよりも、聖書の使信を聞き手の生活の中に持ち込む働きをします。それによつて、御言葉の解き明かしが、そのまま生活への適用ともなるのです。このあたりは、講解説教の一つの模範として、説教者が大いに学びとりたいところです。

本書の巻末には、リュティがその最晩年に書いた自伝的エッセイが収められています。簡潔なものですが、人生においてなにを大切なこととしていたのかが伝わってくる文章です。翻訳はまことに読みやすく、まさしく「説教」の言葉になつ

ています。主の日に説教の務めに携わっている訳者ならではの職業です。訳者の野崎卓道牧師は、東京神学大学在学中からドイツ語の力のある人として注目されていました。ドイツ・ミュンヘン大学留学を経て、ドイツ語の力はますます磨かれています。教会の牧師としての働きのかたわら、こつこつと訳業を続けるその労苦に頭が下がります。リュティと同じスイス人であるウエーラー牧師（野崎牧師がいる石川県のお隣の富山県で伝道牧会に励んでおられます）の協力を得て、これ以上の訳者は望めなれないと思います。未訳である『ルカ福音書』『ヨハネ福音書』『使徒言行録』『ローマ書』などの説教集は、これまでに出版されたものの倍くらいの分量があるのですが、ぜひ翻訳を続けていただきたいと心から願っています。

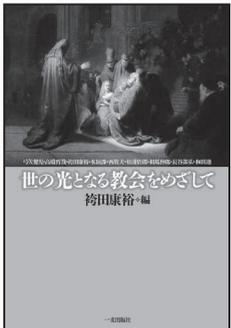
（こいずみ・けん 東京神学大学准教授）
（四六判・二三六頁・定価二〇〇円（税込）・新教出版社）



世の光となる
教会をめざして

弓矢健児 高橋哲哉 袴田康裕 水垣渉 西牧夫
松浦悟郎 相馬伸郎 長谷部弘 和田進

袴田康裕 [編]
Yasuhiro Hakamata



「世の光」となるように召された
キリストの教会は、
今日、いかに歩むべきなのか。
牧師、思想家、哲学者、カトリック
司教、経済学者、憲法学者が、教会
とキリスト者の果たすべき課題と
責任を真摯に問うた講演、第2集。

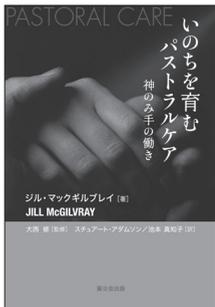
四六判
定価 3,360 [本体 3,200 + 税] 円
ISBN978-4-86325-060-4



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp/>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp/

パストラク・ケアの「地球の歩き方」
ジル・マックギルブレイ著
大西 修監修／池本真知子、スチュアート・アダムソン訳

いのちを育むパストラルケア 神のみ手の働き



上田憲明

この本を、読ませていただいで、今回まず初めに思い浮かんだ印象が、「地球の歩き方」だった。パストラル・ケアとは何ぞや？ と抽象的に論じている本でもないし、具体的な事例集に注釈を加えているだけの本でもない。パストラル・ケアは比較的最初の方の挿話（二二頁）にあるように、誰もが取り組めることであるにも拘わらず、ほとんどの信徒にとつては、真剣には取り組んでいないと思つてゐることであり、ちよつと考えてみた時には、皆で取り組めばいいやと思つてゐることであり、結局は誰もあまり実践していないと位置づけられてゐることでもある。だつてパストラル・ケアつて、牧師さんの専売特許なんですよ？ とどつつかで思つてゐることなのではないだろうか？

せんか？ と誘うガイドブックというのが、この本の真骨頂である。旅行社が全部お膳立てしてくれてゐるバック旅行に参加する人は、あまり「地球の歩き方」を買つて事前に読もうとは思はないと思う。例えば、今度のイタリア旅行、どこに行つて、どういふものを見て、どこで何を食ふべうか？ と具体的に旅行を考えた時に、もう既にそういつた所に出かけたことのある人の体験やその人たちが既に得た知識を読ませていただく、それが「地球の歩き方」の醍醐味であらう。だから、この本を参考に実際にパストラル・ケアをやつてみるのが肝心である。氣をつけなければならぬことや、ここはぜひやつておいた方がいいというお薦めなども紹介されていて、そういう意味では、よくできている。ただ、「地球の歩き方」がそうであるように、完成版ではない。この本を読んで、パストラル・ケアが分かつたよな氣になるのは、「地球の歩き方イタリア編」を読んだだけで、イタリアにもう既に行つた氣になると同じである。実際に行つてみると、書いてあることとは違ふことに出合

のである。それは、生きた関係の中で生まれてくることなので当たり前である。この本はあくまで、もう既にパストラル・ケアを行つた人の覚え書きであり、それを参考にさせてもらつて、自分のパストラル・ケアを行うしか、この本の良さを確かめる手はないのである。

読んでいて、氣になつたことを二、三書いておく。「耳を傾けて聴く」ということが、「ケアの技術」という言い方で括られているが、本全体を読めば分かるように、聴くことは、パストラル・ケアの基本であり、中枢であり、単なる技術に留まらない。

また、二八ページで「よいケアをする人に求められる資質」というリストのトップで「他人中心」というのが書かれてゐるが、これは、かなり乱暴な書き方である。「自己中心的な考え方から、抜け出すことができる」とか「ケアする相手を中心に考えることもできる」とすべきではないだろうか？ なぜなら、

五一〜五三ページのエコマップを描くエクササイズでは、ごく当たり前前に、自分のことを真ん中の大きな円で描くことが示されている。つまり自分中心に考えることが当然とされているのである。他人中心という資質の人（もし、そんな人がいたとしたら、その人）は、このエクササイズには相当なストレスを要求されるに違ひない。

細かいところで、今私自身は、一年間だけ桃山学院中学校高等学校のチャプレンをさせていただいてゐるが、監修者の大西主教は、桃山学院理事長ではなく、桃山学院院長である。

いずれにせよ、この本は実際に読んで使つてみて、自分としては、ここが参考になつた、ここは違つていた、とフィードバックをして、これからもどんどん発展させていくべき本なのではないかと、そんなことを思わされた。

（うさだ・のりあき）桃山学院中学校高等学校チャプレン
（A5判・二二八頁・定価一八九〇円（税込）・聖公会出版）

聖公会出版

— 近 刊 案 内 —

聖公会の職制論

エキユメニカル対話の視点から

著 ● 西原廉太

(A5判・上製 60900円)

近現代において進展するキリスト教会間対話。教派間のエキユメニカル諸合意における「職制論」的諸課題を整理・分析・検討する作業を通して、最終的には「アングリカニスムの職制論」の課題を、近年の教会論的、倫理的諸課題も踏まえて論じる。この先行的単独研究は海外においても日本国内においても為されておらず、注目される研究書。

人は何を視い、なぜ歌うのか

典礼音楽の神学的考察

著 ● カスリーン・ハートマン 監修 ● 竹内謙太郎

訳 ● 菊池泰子・榎原美美子 (四六判・並製 26400円)

教会が、礼拝を歌わずにおられないのはいつたいなぜか。礼拝とは何であり、またそれを行うために音楽が必要であるのはなぜか？ 音楽が礼拝の神秘を人々に伝えるという事はどのように成り立つのか？ 礼拝の神秘と、会衆が歌つてゐる音楽とを結ぶ本質的なつながりとは何か？ これらの問いに神学的な見地から考察した本邦初の書。

エレミヤの肖像

（日本版インタープリテーション 第22号）

総監修 ● 月本昭男・大貫隆 西原廉太 (A5判・21000円)

戦災の中にある社会を導いたエレミヤの折りは？ 現代社会がもたらしたと思われる自然災害・テロの恐怖の中にあるわたしたちに、エレミヤの折りは通じるのか。エレミヤは現代に生きるわたしたちに確信に満ちたメッセージを投げかけてゐる。

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
☎03(3235)5681 FAX 03(3235)5682
http://seikokai-publishing.jimdo.com
nssk-bookshop@company.email.ne.jp

イギリス人の宗教行動

ウェールズにおける国教会制度廃止運動



興石 勇

二〇一〇年三月、ジュネーブで開かれた全聖公会正義・平和ネットワークの集会のことだった。評者はその会議にウェールズ聖公会を代表して出席していた男に興味を持った。それは、彼があるセッションの中で、「国政に関わる問題であれば、私はこれまで知り合いの国会議員と個人的に話し合っており、具体的な成果を挙げた」というような発言をしたからだった。日本では「議員と個人的に話し合う」ことなど余り考えられないことであるのに、当然のことのようにこうした発言ができるウェールズという国にも興味を抱いたのだ。

その男が、会議を中座して帰国する間際「ちよつと個人的に話したいと思っていたんだけど、今いいかな」と評者に話しかけてきた。「われわれは、『米国が日本を降伏させるために広島と長崎に原爆を落とす』と聞かされてきたのだが、それは本当のことだろうか。「いや、アメリカは日本を使って原爆実験するために、降伏の受諾を延期したのが事実だ」といった会話をわれわれは交わしたのだ。

評者は、こんなやりとりをするずっと前から、本書の著者のウェールズへの関心について知っていたのだが、はからずもその男が、会議を中座して帰国する間際「ちよつと個人的に話したいと思っていたんだけど、今いいかな」と評者に話しかけてきた。「われわれは、『米国が日本を降伏させるために広島と長崎に原爆を落とす』と聞かされてきたのだが、それは本当のことだろうか。「いや、アメリカは日本を使って原爆実験するために、降伏の受諾を延期したのが事実だ」といった会話をわれわれは交わしたのだ。

司祭や主教が多く、定住している場合でもウェールズ語を話す者は皆無といった形で住民の無視が日常化されていた。しかし、名誉革命（一六八八年）に伴う「信仰寛容法」等の成立を画期として、英国における国教会制度のこのような不平等是正の動きが本格化することになった。また、産業革命に起因する著しい社会変動、特に伝統的な農業地域であったウェールズにおける石炭や鉄鉱資源の発見による新産業の発展による人口移動が、地方で特に根強かったはずの不平等な制度を改革する機動力となった。中でも、メソジストや会衆派などの、非信従プロテスタントの宣教・牧会の活動が占めるウェールズ住民の権利の拡大の運動の影響は大きかった。それが、ウェールズにおける英国教会の変革運動の契機となったからである。ウェールズにおける人口増加に伴う議員定数の増加により、非信従プロテスタントの支援する議員が議場に占めるようになり、一九一四年には「ウェールズ教会法」が成立し、一九二〇

んなやりとりがあつて初めて、著者とその関心をいささか共有することとなった。筆者の関心はウェールズのあの男はなぜ「国会議員と個人的に話し合っており、具体的な成果を挙げた」という点にあつたにすぎないのだが。

『イギリス人の宗教行動——ウェールズにおける国教会制度廃止運動』を読み進む内に、評者は英国教会史とその神学史の「多様な流れ」を知りつつも、その実相にまで意識が及ばずにいたことに気付かされた。一五五九年「国王至上法」、「礼拝統一令」に端を発する国教会化という政策が、周辺化されていたケルト系の人びとに何をもちたのかに無関心だった自分に気がついたのである。

「国教会化」は、全国民に教会税を義務として課しつつ、国教会への所属を拒否する者に対しては出生や結婚や埋葬といったいわば市民サービスを受ける権利、ケンブリッジ及びオックスフォード二大学の入学の権利、さらに公職に就く権利を否認する著しい差別に他ならなかった。国教会信徒でもウェールズのような僻地では新たな教会は建設されることもなく、不在の

年ウェールズにおける国教会制度が廃止されることになった。かくして、ウェールズのキリスト者たちが今も議員と向き合つて個人的に影響力を行使するということの背景に納得がいったのであった。

評者は本書の主題が取り扱い困難であることを痛感させられている。ただでさえ複雑極まる英国史の、錯綜する宗教政策史とキリスト教諸派の運動史、その双方の渦中に巻き込まれた周辺地域での「非国教化」運動を解析しようとする時、先行する研究の限定性もあり、問題設定からしてかなりの困難が想定される。このような困難な課題に取り組み、著作にまとめられた著者の意欲と努力に敬意を表するものである。多少急いだのであろうか、ウェールズの教会グループの主張が一次資料を用いて紹介されていれば更に迫力が増したと思う。

(こしいし・いさむ) 日本聖公会川越基督教会牧師
(A5判 二七二頁・定価三二五〇円(税込)・聖公会出版)

キリスト新聞社の本
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.

▶ **神学を学ぶための必携の書!**

下巻をオンデマンド復刊

キリスト教神学資料集 上巻

キリスト教神学資料集 下巻

好評発売中

キリスト教神学資料集 上・下

アリストター・マクグラス ● 編
古屋安雄 ● 監訳

現代イギリスの代表的な神学者マクグラスが編集した神学資料集。上巻では「神学の源泉」「神論」「キリストの人格」「キリストにある救い」、下巻では「人間の本性と罪と恩恵」「教会」「サクラメント」「キリスト教と諸宗教」「最後の事柄」までを収録。

【上巻】12,600円
【下巻 ※オンデマンド版】10,500円

▶ **「日本のキリスト教」の将来を描く!**

私の歩んだキリスト教
一神学者の回想

古屋安雄 ● 著

好評発売中

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町 15-51
高野マリア 編集
TEL: 048-424-2067 (価格ほ別添)
E-Mail: support@kirishin.com
URL: http://www.kirishin.com

著者のハートの鼓動がズンズン響いてくる好著！
溝口捷支著

牧師の書齋のデボーション



深澤健一

「牧師」「書齋」「デボーション」などの言葉から、ちよつと近寄りたいたいものを感じました。しかし読み進んでいくとわかりやすい文章にトントントン引き込まれていきました。

「この度、勧められ、おだてられまして……上梓させていただきました（あとがき）とありますが、その主語は、創造主なる神でありましょう。五〇余年の著者の営みを続けてこられたのであれば誰もが納得のいくところでしょう。

「デボーション」(DEVOTION)を英和中辞典(斎藤秀三郎著、岩波書店)から引くと①献身、熱心、熱誠、忠誠 ②信心、敬神、禮拜、奉仕 ③祈祷と出ている。この語は日本の教会でもまだ十分に行き渡っているとはいえず、まして一般社会ではこれからの言葉といえるでしょう。意味は「祈祷のとき」「静止の時」と解せましょう。

著者は東京・杉並にあつた日本クリスチャン・カレッジ(現東京基督教大学)卒業後、母教会の副牧師四年、宣教師との開拓伝道一年のいわゆる丁稚奉公時代を終え、甲府キリスト福音

教会三十七年、取手キリスト教会八年をキリスト教の牧師として歩きました。文字通り多用で、多様なキリスト教界と日本、そして世界での働きでした。

渡辺和子氏(ノートルダム清心学園理事長)があるテレビ番組で「穴からしか見えないもの」について語っておられた。穴とは「老い」であり「病い」である。人が生まれ、年老い、病気になる。年若かった時には見えてこなかったものが、年を重ねて初めて見えてくるものがある。これが穴の現実であると。

「取手では忙しすぎて大事なものを見失っていたのではなかったか(あとがき)との反省に立っての筆跡を確認するよう思われます。この穴の一点に絞って幾つかを覗いてまいりましょう。著者が聖書のコメントとして挙げたものへの小生の反応です。

「神は貧しい者を決してお忘れにならず、常に手当てして励ましてくださいます。私たちは、ささげものについて、礼拝出席について、祈祷会参加について、弱い人たちのことをどのよ

うに思い、助け励ましているでしょうか。」(二五頁)

分かつちやあいるけどなかなかどうして、の実感あり。

「確かにパウロを励まし、初代教会を励ましてきたのは知恵があり、金がある。そして人々の期待を背負っている人でなく、弱い者、愚かな者、取るに足りない者たちでした。」(二九、三〇頁)

その通り、アーメン、アーメン。

「私たちの中に信仰を持って以来、それが一度もぶれなかつたという人がいるでしょうか。もしあればそれは素晴らしい恵みです。しかし信仰がぶれた時どうしたのでしょうか。何が助けとなったのでしょうか。」(一一八頁)

いつも信仰のぶれの激しい者への共鳴か。

「彼はその病を「生涯の友」として受け止めました。人とは何らかの病をもつ者です。だからといって、それは信仰が弱いということではありません。すべてを神の恵みとして受け止め

る生き方をしたいものです。」(二二九頁)

使徒パウロは、病氣、弱さのうちにかれの力が完全に現れると言っている。願わくはそこまで行きたいもの。

「時に、その神殿の礎石の貧弱さに嘆く年寄りと、大いに喜び、賛美と感謝とをもって神殿再建を喜んだ者たち、若者たちが居たと言います。人生の先輩、高齢者をどのように考えるか思いを新たにさせられます。」(二〇二頁)

年寄りと若者の対応のギャップにはたいへん興味津々。

以上のように、著者のハートの鼓動がズンズン響いてきます。神のなさることは、すべて時になつて美しい。(伝道の書 3・11)

(ふかざわ・けんいち)日本同盟基督教団久里浜福音教会協力牧師、東京基督教学園理事

(四六判・二八八頁・定価一四七〇円(税込)・ヨベル)



ルター選集 1 ルターの祈り

石居 正己 編訳
●四六判上製 ●定価1,260円

ルターの理解にしがえば、人間がほんとうに基盤としなくてはならないのは信仰である。しかし、その信仰の生活は祈りの上にすえられていなければならない。正しい神関係としての信仰は、純粋な祈り以外のものではないし、われわれの信仰はまさしく祈りとよばれるものである。「解説」より本書は、1976年に『ルター選集・1 ルターの祈り』として聖文舎から刊行されたものの復刊。

LITHON [リトン]
〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

小川国夫の〈神秘〉
小川国夫著

イエス・キリストの生涯



木崎さと子

聖書という膨大な書物群のなかで、イエスの言行を記した福音書にキリスト教徒が最も重きをおいているのは当然で、そのどの部分に言及されても、みな知ってる。

明治以降、日本に雪崩込んできた欧米の文物の根本にも、聖書の物語はひそんでいるから、クリスチャンでなくとも、ちょっと「教養」のある人なら、福音書のいろいろなエピソードやイエスの教えを、知ってる。

東海道の宿場町でかつては馬宿を営んでいたという旧家に生まれた少年が、聖書と出逢い、そしてイエスに触れたとき、なにが起きたかはともかく、八十歳で世を去るまで、この「知ってる」という安易な気分には、おそらく一度も墮すことなく、日々新たに聖書を読み続け、そこから感じとったイエスを、生涯という時系列に添って語ったのが、『イエス・キリストの生涯』である。連続講演を基にして「福音と世界」誌に連載された文章が三十年経って単行本化されたのだが、いま書かれたかのような新鮮な空気がみなぎっているのは、そのためであろう。感じとった、といっても、恣意的に選びとった感じ方ではむ

ろん、ない。福音書に記されたことはすべて事実である、と受容した上で、作家である自分の言葉で、それを再現した。そもそも福音書とは、そういうものだ。イエスの身と周囲に起きたとされることを、そのまま事実として、福音書記者たちが神秘に打たれつつ、謙虚に記した文章である。

たとえばイエスの降誕について「貧しい形で生まれたのに、言葉の力で崇高なものにしている。」と言った上で、「それでは、その言葉の力はどこから出てくるのか。」と問い、「文学者も直感した神秘が、ここに隠されている」と断ずる。ここでの「文学者」とはジャン・ジュネのことだが、小川自身が「直感した神秘」でもあることは言うまでもない。

この神秘の完き受容によって福音書の記述は簡潔になり、現代の私たちには「解しかねる」ことも多いが、それを含めて作家は語る。

非常に簡潔な語りなのだが、小川国夫の濃密な世界に直結する隘路が至るところに垣間見える。深淵をのぞき、暗い奔流の音を聞き、そしてその向こうに光を希む……福音書の印象その

ものである。深い世界への矢印があちこちに刻まれている。でも見過ごそうとすれば見過ごして最後まで読んでしまえる、というところが、福音書の各エピソードを、知ってる、という気になる感じと似ている。

小説家が聖書を読むと、その場面ごとに想像を刺激され、それを描くときに多くの言葉を連ねがちだが、小川国夫はきわめてストイックである。聖書に書かれていること、また聖書の背景として認められていること、を厳密に意識し、自身の空想を流出させる誘惑に屈しなかった。

そして、その誘惑を蜜のように溜め込み、大長編作品群のなかに、どろりと流し込んだ。

おそろしい作家である。

そのおそろしいひとが、荒野の悪魔の誘惑を語りつつ、誘惑に打ち勝ったイエスを見上げる。こどもの無力をもって、見上げる。無力が無垢だが、生のおそろしさを知っている眼である。

「カナの奇蹟」でイエスの母マリアを語る作家の身には、彼を生み育てた母が染み込んでいる。エッセイにあるように「ぼくは橋の下で暮らすようになる」という幼い息子に、それなら自分も一緒に橋の下で暮らす、と共に泣いた母である。解説的なものも含むし、著者の解釈もむしろあるが、聖書とくに福音書は、自分のすべてを賭けて読まなければ意味がない、ということ、改めて実感させられる。

宗教は時空を超える、などと私たちは安直に言うが、小川国夫は宗教によってこの時空が、人間一人ひとりの存在の条件のなかで、変貌する可能性がある、と真剣に考えていた。そのことが、この本からも伝わってくる。

(著者) 小川国夫 (訳者) 木崎さと子
(四六判・二三〇頁・定価一九九五円(税込)・新教出版社)

●2013年1月号から前月号まで、ホームページで閲覧できます。

今すぐアクセス!

本のひろば ホームページ

<http://www.bunshyo.or.jp>

「キリスト教文書センター」のホームページから書評誌『本のひろば』をクリックしてください!

一般財団法人
キリスト教文書センター
〒162-0814 東京都新宿区
新小川町9-1
TEL・FAX 03-3260-6520

■日本キリスト教団出版局

祈りの小径

小島誠志／小林 恵写真

29編の「祈り」を、彩り豊かな写真を添えて贈る。悩めるとき、病むとき、癒しを必要とするとき……、そうした日々の信仰生活を支える、心に響く祈りの言葉を紹介。

A5判・64頁・1890円

ニューセンチュリー聖書注解

コリントの信徒への手紙一、二

F・F・ブルース著／伊藤明生訳

コリントの信徒が直面する種々の問題に、指導を与えるパウロ。現代聖書の成果と、当時のコリントを取り巻く社会背景を踏まえつつ、使徒パウロの宣教の真意を読み解く。

A5判・330頁・5460円

マタイ福音書を読もう1 一歩を踏み出す

松本敏之著

聖書が書かれた時代、ユダヤ的背景を踏まえながら、テキストと現代の私たちとのつながりを平易な言葉で説き明かす。第1巻は降誕物語から山上の説教までを収録。

四六判・232頁・1890円

讃美歌21による礼拝用オルガン曲集 第1巻 礼拝

飯 靖子／志村拓生演奏

『讃美歌21による礼拝用オルガン曲集 第1巻』の全38曲を、曲集の編者である2人が、パイプ・オルガンやリード・オルガンで演奏した模範演奏CD。各曲の演奏に使用したストップ・リストを収録。

38曲収録・1575円

■教文館

新生の福音

ローマ書講解説教 上

大宮 溥著

「最も純粹な福音」と呼ばれるローマ書。多くの人が苦悩し、慰めと力を必要としている現代において、そこに語られた魂の糧と救いを丁寧に解き明かす説教集。

四六判・232頁・1890円

INFORMATION

近刊情報

シリーズ・世界の説教 ドイツ告白教会の説教

加藤常昭編

ヒトラーに反対し、ナチズムと戦ったドイツ告白教会。本書では、「説教のための黙想」によって紡ぎ出され、抵抗運動の支えとなった彼らの優れた説教を収録する。

A5判・512頁・4830円

■キリスト新聞社

自然の問題と聖典〈仮題〉

旧約聖書における自然災害(樋口進)／実験動物感謝記念礼拝の取り組み(大宮有博)／神学の緑化(近藤剛)／動物愛護観のダブルバインド(奥野卓司)／神は線を引かれたか?(平林孝裕)／古代世界における疾病・食糧危機とキリスト教(土井健司)／原発問題とキリスト教(内藤新吾)／イエスの自然観(嶺重淑)／自然・環境問題と仏教(松田史)

四六判・330頁・予価2500円

■新教出版社

詩篇の思想と信仰Ⅳ——76篇〜100篇

月本昭男著

古代オリエント学に通暁する著者ならではの広い視野から、各篇に詳細な語釈を施し、思想・信仰の特質にまで鋭く踏み込んだ注解書。詩篇の学びに必携。(全6巻予定)。

四六判・378頁・予価3400円

神学の履歴書

佐藤 優著

鬼才佐藤優氏が、バルトからマクグラスまで、いま読むに値する13冊の神学書を取り上げてその核心を解説。神学書の読み方を伝授する佐藤流神学ゼミナール。

四六変型判・280頁・予価1900円

| 書店名 | 郵便番号 | 住所 | 電話 | ファックス | URL | メール | 郵便振替 |
|----------------|----------|-----------------------|--------------|--------------|--|-----------------------------------|----------------|
| 北海道キリスト教書店 | 060-0807 | 札幌市北区北七条西6丁目 | 011-737-1721 | 011-747-5979 | http://www.jp-shop.com | sasaki@jp-shop.com | 02770-2-56520 |
| 善隣館書店 | 020-0025 | 盛岡市大沢川原3-2-37 | 019-654-1216 | 共用 | http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/ | zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp | 02350-0-874 |
| 仙台キリスト教書店 | 980-0012 | 仙台青葉区1-136 敷島センター17号F | 022-223-2736 | 共用 | | fcqwks524@ybb.ne.jp | 02230-0-31152 |
| 恵泉書房 | 260-0021 | 平新町短箱22 千葉カシヤセンタービル | 043-238-1224 | 043-247-3072 | | keisen@vesta.ocn.ne.jp | 00120-9-43619 |
| 教文館 | 104-0061 | 東京都中央区銀座4-5-1 | 03-3561-8448 | 03-3563-1288 | http://www.kyobunkwan.co.jp | xbooks@kyobunkwan.co.jp | 00120-2-11357 |
| 聖公書店 | 162-0814 | 東京都新宿区新小川町9-1 | 03-3235-5681 | 03-3235-5682 | http://www/seikokai-pub.jp/ | netk-bookshop@company.email.ne.jp | 00140-8-50880 |
| アバコ・ブックセンター | 169-0051 | 東京都新宿区西早稲田2-3-18 | 03-3203-4121 | 03-3203-4186 | http://www.avaco.info | avaco@avaco.info | 00130-0-96398 |
| 待農堂 | 167-0053 | 東京都杉並区西荻南3-16-1 | 03-3333-5778 | 03-3333-6378 | http://members3.jcom.home.ne.jp/taishindo/ | taishindo@jcom.home.ne.jp | 00110-8-95827 |
| キリスト教書店ハンナ | 162-0814 | 東京都新宿区新小川町9-1 | 03-3269-4490 | 03-3269-4491 | | kirisu@youstotenhanna@ybb.ne.jp | 00150-9-595509 |
| バイブルハウス青山 | 107-0062 | 東京都港区南青山5-10-2 | 03-6418-5230 | 03-6418-5231 | | biblehouse@bible.or.jp | |
| 横浜キリスト教書店 | 231-0063 | 横浜市中区花咲町3-96 | 045-241-3820 | 045-241-5881 | http://www.biglobe.ne.jp/~yodobara.cs/index.html | sksch@mva.biglobe.ne.jp | 00250-4-2512 |
| 清光書店 | 951-8114 | 新潟市営所通一番町313 | 025-229-0656 | 共用 | | | 00680-8-47 |
| 静岡聖文舎 | 420-0812 | 静岡市葵区古庄3-18-12 | 054-264-0264 | 054-264-4416 | | info@s-seibun.co.jp | 0810-8-26558 |
| 名古屋聖文舎 | 464-0850 | 名古屋千種区今池5-28-4 | 052-741-2416 | 052-733-2648 | http://homepage3.nifty.com/seibunsta/ | nagoya-seibunsha@nifty.com | 00810-5-14073 |
| 京都ヨルダン社 | 602-0854 | 京都市上京区荒神口通河原町東入ル | 075-211-6675 | 075-211-2834 | | ktjordan@inbox.kyoto-net.or.jp | 01010-2-594 |
| 大阪キリスト教書店 | 530-0002 | 大阪市北区曽根崎新地2-1-15 | 06-6345-2928 | 06-6345-2187 | http://www11.ocn.ne.jp/~osakacs | ochtbok@river.ocn.ne.jp | 00990-3-43009 |
| 堺キリスト教書店 | 591-8044 | 堺市北区中長尾町2-1-18 | 072-257-0909 | 072-253-6132 | | sakai-x@topaz.plala.or.jp | 00960-9-47426 |
| 神戸キリスト教書店 | 650-0021 | 神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F | 078-331-7569 | 078-331-9833 | | | 01150-7-45120 |
| 広島聖文舎 | 730-0016 | 広島市中区鞆町7-28 | 082-228-4914 | 082-223-0951 | | | 01360-4-1958 |
| 徳島キリスト教書店 | 770-0052 | 徳島市中島田町3-57-1 | 088-633-6335 | 共用 | http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/ | tokushoten@shrit.ocn.ne.jp | 01630-5-37119 |
| 松山キリスト教書店 | 790-0804 | 松山市中一町11-23 | 089-921-5519 | 089-921-5413 | | sksch@dokidoki.ne.jp | 01650-1-2120 |
| 北州キリスト教ブックセンター | 802-0022 | 北九州小倉北区上富野5-2-18 | 093-967-0321 | 共用 | http://kcbook.net/ | kcbookcenter@ybb.ne.jp | 01780-4-39965 |
| 新生館 | 810-0073 | 福岡市中央区舞鶴2-7 | 092-712-6123 | 092-781-5484 | | | 01750-5-10932 |
| キリスト教書店ハレルヤ | 862-0971 | 熊本市大江4-20-23 | 096-372-3503 | 共用 | | | 017304-45044 |
| 沖縄キリスト教書店 | 901-2134 | 浦添市港川2-25-1 | 098-877-7283 | 共用 | http://www.okinawacbs.com/ | okinawacbs@yahoo.co.jp | 020308-1283 |
| エマオ・BOOKセンター | 904-0004 | 沖縄市中央3-14-2 | 098-929-3776 | 共用 | http://www.okinawacbs.com/ | emacobs@yahoo.co.jp | |

新教出版社

福音と世界

2013年11月号

特集 脱原発への歩み

日本のキリスト者へ、

市民の国際連帯運動への呼びかけ……崔勝久

核／原子力の嘘を見抜き、いのちを守れ……内藤新吾

被災地の一部、いわき市の日常より……明石善信

農民の苦悩……松田翼

市民運動から見た脱原発……大橋明子

パウロ・ティリビのテレビインタビュー……深井智朗

A5判・80頁・本体571円・〒68円
年間予約購読料〒共8,016円(消費税込)

危険な旅

天路歷程ものがたり

ジョン・パニャン著／中村妙子訳

危険な旅



天路歷程ものがたり

ジョン・パニャン著 中村妙子訳

真の救いを求める旅の最中、
様々な試練や誘惑に遭遇する男
クリスチャンが辿り着いた先は
……。イギリス宗教学の古典「天
路歷程」をダイジェスト版で！

◎B6判・114頁・定価1050円

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL: 03-3260-6148
FAX: 03-3260-6198

編集室から

昼食にリーズナブルな寿司屋に行くことがある。九月になっても暑く、さっぱりしたものが食べたいと思ってしまうのである。あくまでも噂ではあるが、回転寿司などのある店では「代用魚」と言われるネタが使われるのだとか。「マグロ」と称して別種の魚を出したり、「アナゴ」といって別の食材が使われることもあると聞いた。

握り寿司は、見た目ではなかなかわからない。これは本当にブリなのであるのか？と考えて食べる人はあまりいないであらうし、これはエンガワだ、と言われればそう思って食べてしまう。こうした話がどこまで真実かは確認していないが、よく考えれば、食品というのは意外と本物と偽物の区別がつかないものであるかもしれない。

しばらく前までは「ビール」はビールでしかなかったが、九〇年代以降は発泡酒というものが登場し、現在では第三のビールというものもある。少し酔っ払ったら、それぞれは必ずしも区別はつかないであらう。少なくとも、一対一で混ぜられたらもうわからない。チョコレートでさえさまざまだ。外国の菓子

を売っている輸入食品店に行くと、カカオの割合の量がそれぞれ異なったチョコレートが多く売られている。しばらく前に上の国立科学博物館でチョコレートに関する企画展を見てきたが、そもそも何をもってして「チョコレート」と定義するかは、まったく恣意的なものにすぎない。何が本質なのか、という問題を考えれば、例えば、以前とある教会の聖餐式でぶどう酒(ぶどう液)ではなく「ファンタのグレープ味」が出されたという話も興味深い。教会の担当者によれば、「ぶどう液」を調達できなかったそうだ。

思えば、何が本物か、何が偽物か、というのは実に難しい問題である。食べ物でさえそうなのだから、思想、学問、芸術、人格などにおいてはなおさらであらう。日々、良い物や優れた物を見て、それらに触れていなければ、良い物を見分ける力は養えない。だが偽物があるからこそ、本物が際立つ。そして、そもそも偽物があるということそれ自体がすなわち何を意味するのかを考えてみることも、大切かもしれない。(竹下)

せいなるよるのたからもの

クドウあや 作

◆ A4 変型・定価 1365 円

10月25日



せいやくんは、ダウン症という病気を持った子どもです。クリスマスの夜に生まれたせいやくんは、まもなく特別支援学校の1年生。学校ではどんなすてきなことが待っているでしょうか。



「出生前診断」の問題をとりあげ、両親の苦悩と出産の決断を通して、いのちの尊厳を訴える絵本です。クリスマスの意味を子どもと一緒に考えるためにも最適の内容です。作者のクドウあやさんはクリスチャンの漫画家。代表作は『ZIPPY!』（集英社）。一児の母。

原子力発電の根本問題と我々の選択

10月17日

北澤宏一・栗林輝夫 / 日本クリスチャン・アカデミー編
民間事故調委員長を務めた物理学者北澤宏一氏と原発の政治神学的暗部を別括する神学者栗林輝夫氏を中心としたシンポジウム。◆四六判・定価1890円

キリスト教の自己批判

10月18日

上村 静 著

明日の福音のために
イエスの福音から現代社会と教会を見直す問題作。著者のこれまでの研究と思索のエッセンスを平易にまとめた一冊でもある。◆新書判・定価998円

古代イスラエル預言者の特質

樋口 進 著

伝承史的・社会的的研究

王国時代に集中して出現した預言者という特異な宗教現象。預言者の支持グループに着目し、社会的な視座から迫った力作。◆A5判・定価5250円

栄光のキリスト

ヨハネによる福音書の
受難物語
【大森講座25】

高砂民宣 著

精密な分析を通して浮かび上がる神学。◆四六判・定価1050円

イエス・キリストの生涯

小川国夫著 まえがき 加賀乙彦

自らの信仰告白として語った珠玉のキリスト伝。◆四六判・定価1995円

いのちの糧の分かち合い

山口里子著

いま、教会の原点から学ぶ聖書の声なき声を聴き取る、目からウロコの書。◆A5判・定価2310円

祈りの小径

小島誠志
 小林 恵 写真

贈り物に最適



『信徒の友』巻頭の「祈り」から29編を精選し、彩り豊かな写真を添えて贈る。希望の光を与える珠玉の祈り。

◆A5判上製・64頁・1890円

マタイ福音書を読もう1 一步を踏み出す

松本敏之



マタイによる福音書の通読を導く3巻シリーズ、第1弾。本巻にはイエス誕生から山上の説教までを収録する。

◆四六判並製・232頁・1890円

CD版 讚美歌21による 礼拝用オルガン曲集

第1巻 礼拝

第1回

飯 靖子 /
 志村拓生 演奏



書籍版に収録の全38曲を曲集の編者が演奏した模範演奏CD。各曲の演奏に使用したストップ・リストも収録。

◆38曲収録・1575円

ニューセンチュリー聖書注解 コリントの信徒への手紙一、二

F.F.ブルース

伊藤明生 訳

第11回配本



現代聖書学の成果と、当時のコリントを取り巻く社会背景を踏まえつつ、使徒パウロの宣教の真意を読み解く。

◆A5判上製・330頁・5460円

ホームページ更新情報

日本語で書き下ろす旧新約聖書注解

2017年刊行開始予定

見本原稿、掲載中!!

(毎月末の更新です)

<http://bp-uccj.jp/publications/tokusetsu/>

■ガラテヤ書 浅野淳博 ■ヨハネ福音書 伊東寿泰 ■第一ペトロ書 辻学